

2018年度 中東研究

第2回研究会

日時： 2019年2月1日 15:00~17:00

開催場所： 武蔵野大学1号館

発表タイトル： 「カスピ海合意と外交への影響」

発表者： 廣瀬陽子 慶應義塾大学総合政策学部 教授

出席者： 山内 昌之、布施 哲史、中川 恵、池田 明史、今井 宏平、高岡 豊、
辻上 奈美江、廣瀬 陽子、保坂 修司、吉川 恵章、若林 啓史

発表要旨：

豊富な石油と天然ガスを有する世界最大の湖であるカスピ海の法的地位と領海画定について、周辺5か国（ロシア、カザフスタン、トルクメニスタン、イラン、アゼルバイジャン）が、2018年8月に署名した「カスピ海の法的地位問題に関する協定書」に関し、詳細な分析と解説がおこなわれた。ソ連解体後、資源の存在が明らかとなって以降に表面化したカスピ海の法的地位問題が、2018年になって合意に達した背景に、カスピ海への米軍の進出を阻止したいロシアとイランの思惑が影響している点が指摘された。さらにアゼルバイジャン、カザフスタン、トルクメニスタンが得られた成果に加え、合意の今後の展開についても、政治と経済両面の観点から分析がおこなわれた。